

進捗報告

1 読んだ文書

1.1 経済波及効果発見のための出力の多様性を考慮した因果連鎖提示システムの構築

企業の経済活動は、物価や疫病等の災害を含めた外部環境によって大きな影響を受ける。実際に政策を練る上で支援を行う対象とその程度を予測する必要性があり、外部環境の変化とそれに伴い発生する様々な結果の因果関係を適切に認識することが重要になってくる。そこで、多量のテキストデータから原因表現と結果表現を取り出し、それをもとに因果連鎖提示システムの木を作ることで、原因表現の入力に対してどのような結果が考えられるのかを提示してくれる手法である。

1.2 スキルの需要と供給の可視化: 符号付ネットワーク分析によるアプローチ

現代社会は各分野の細分化によって成立しており、企業が競争力の高い製品を開発したりサービスを提供したりするには外部に委託することが選択肢に入る。その場合、委託する側(企業)が求める能力と委託される側(エンジニア)が保有する能力の間に隔たりがある場合に様々なリスクが生じ得る。これをクリーク構造のネットワークに落とし込んで分析をするという研究である。

1.3 Social Force Model を用いたパーソナルモビリティと歩行者の混合交通のマルチエージェントシミュレーション

近年、電動スクーターのようなパーソナルモビリティに関連する法律が整備されつつあり、最高速度や識別灯の灯火により歩道の走行が可能となっている。そこで、歩行者の安全性や快適性に与える影響を分析するためのツールとして、歩行者とパーソナルモビリティが存在する状況をシミュレーションで再現したという研究である。

参考文献

- [1] 経済波及効果発見のための出力の多様性を考慮した因果連鎖提示システムの構築
小林 涼太郎 和泉 潔 東京大学大学院工学系研究科
- [2] スキルの需要と供給の可視化: 符号付ネットワーク分析によるアプローチ
劉庶 鳥海不二夫 田島浩幸 東京大学 テクノプロ・ホールディングス株式会社
- [3] Social Force Model を用いたパーソナルモビリティと歩行者の混合交通のマルチエージェントシミュレーション
秋山直毅 藤井秀樹 吉村忍 東京大学大学院工学系研究科